

秋田県新型コロナウイルス感染症対策本部会議（第 13 回）

日時：令和 2 年 11 月 29 日（日）

午後 4 時 00 分～

場所：第二庁舎 4 階 災害対策本部室

次 第

1 開 会

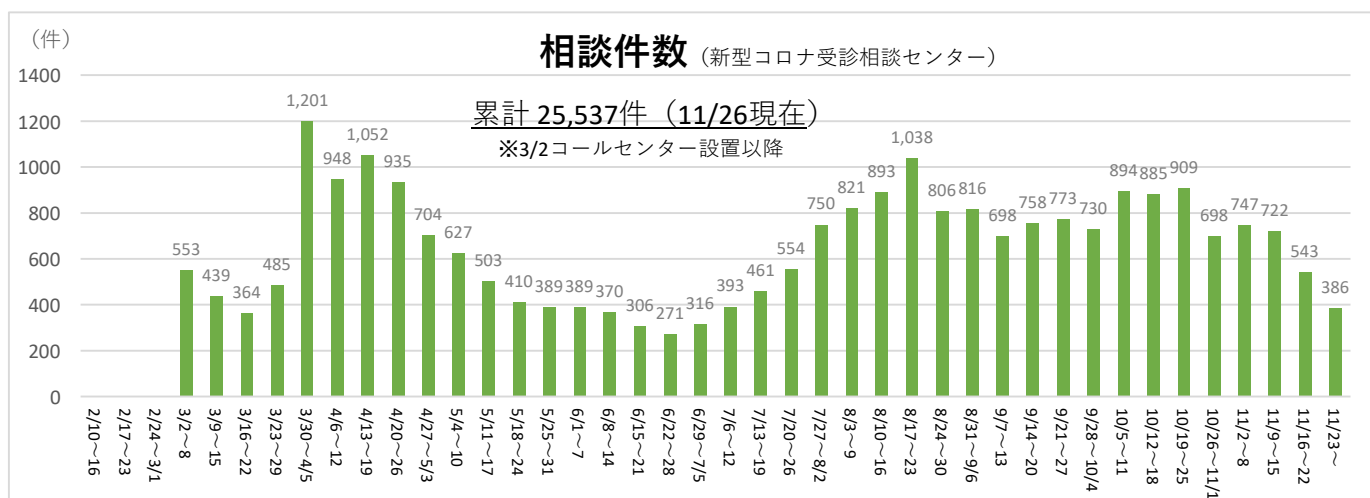
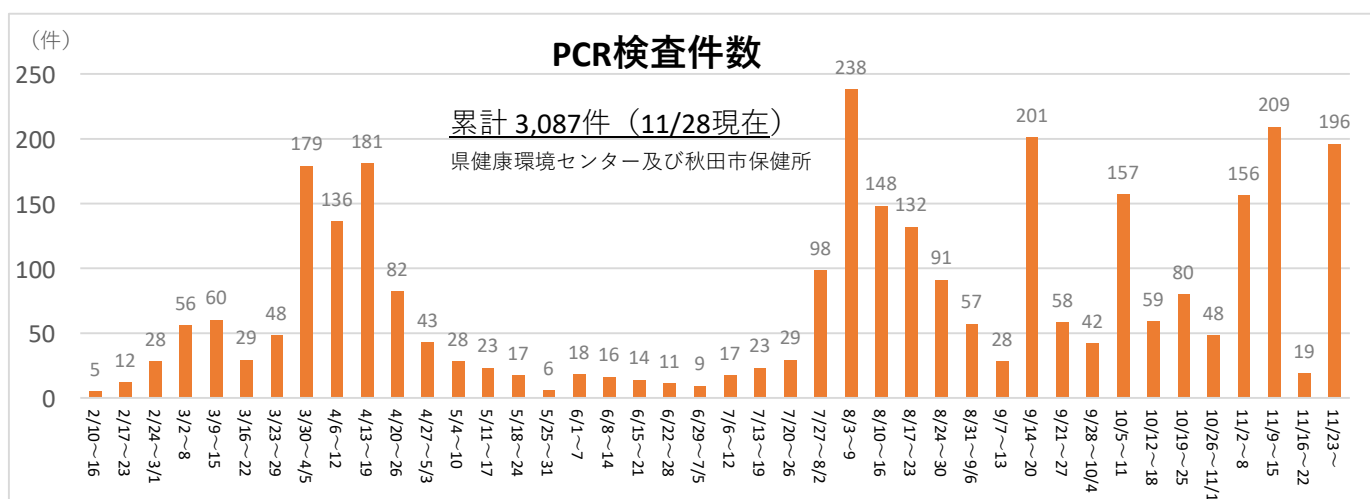
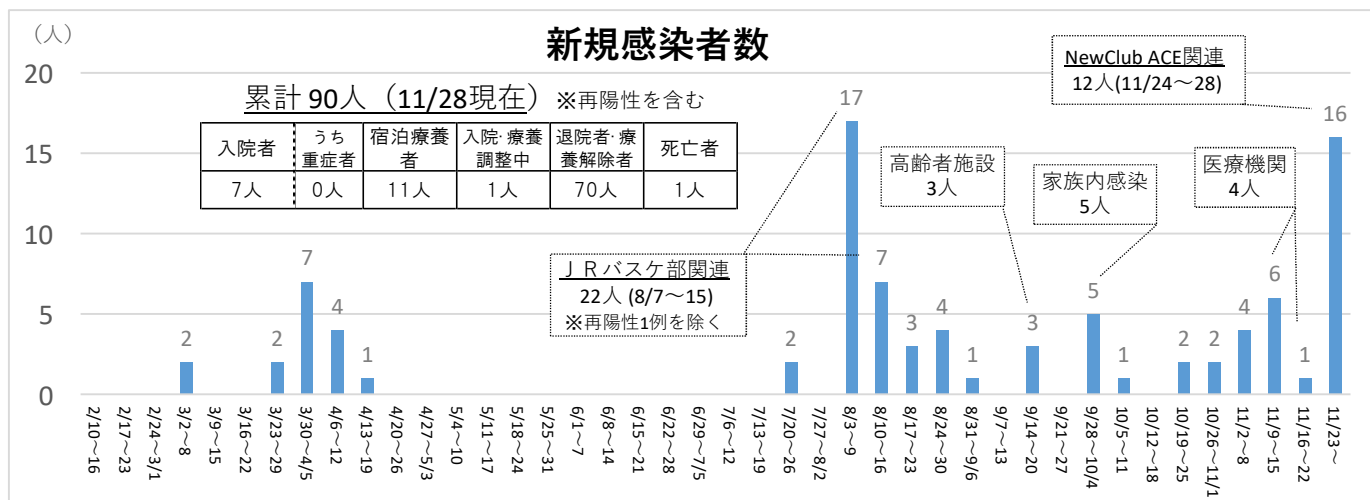
2 議 題

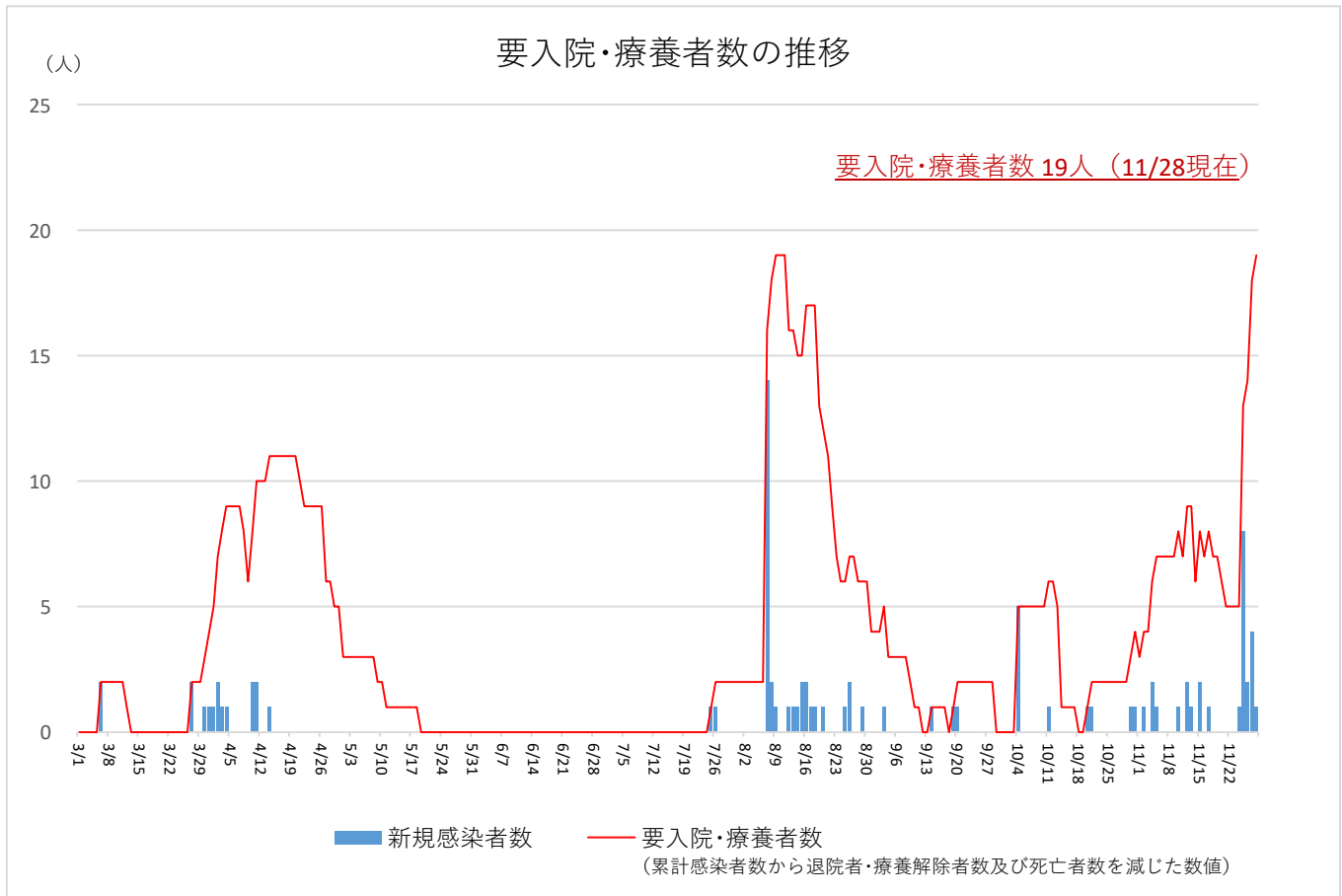
- （１）新型コロナウイルス感染者の県内発生状況等について（資料 1）
- （２）県外との往来及び会食における感染防止策の徹底について（資料 2）
- （３）12 月 1 日以降のイベントの開催制限について（資料 3）
- （４）その他

3 知事指示

4 閉 会

新型コロナウイルス感染者の県内発生状況等について

令和2年11月29日
健康福祉部



入院病床及び宿泊療養施設の使用状況 (11/28現在) (人、床・室)

入 院 病 床					宿泊療養施設		
入院者 (うち重症)	フェーズ 2 (現在)		フェーズ 4 (最大)		療養者	確保居室 (収容人員)	使用率
	即応病床	使用率	即応病床	使用率			
7 (0)	47	14.9%	222	3.2%	11	58 (99)	19.0% (11.1%)

※ 調整中 1 人は宿泊療養施設に入所予定

年代別 累計感染者数 (11/28現在) (人)

10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
3	5	30	15	11	8	11	2	4	90

※ 計には、非公表 1 人が含まれる。

管轄保健所別 累計感染者数 (11/28現在) (人)

大館	北秋田	能代	秋田中央	秋田市	由利本荘	大仙	横手	湯沢	計
6	0	4	7	54	10	7	1	1	90

秋田県新型コロナウイルス感染症 外来医療・入院医療 全体図

発熱患者等

事前の電話を徹底

かかりつけ医
(地域の診療所等)

あきた新型コロナ受診相談センター
(コールセンター) 8回線
※医療機関の紹介のみ

発生届 (HER-SYS)

患者 (確定例)
疑似症 (入院)

保健所 (9保健所)

受入調整

県調整本部
(保健・疾病対策課)

・宿泊療養施設入所
・医療圏を越える入院調整

・受入医療機関選定
・患者搬送調整
・専門領域の受入調整

入院・宿泊療養施設

入院協力病院
(18病院 222床)

○県北 (5病院 49床)
○中央 (7病院 110床)
○県南 (6病院 63床)

〔・重症 22床
・中等症Ⅱ 119床
・軽症・中等症Ⅰ 81床〕

※重点医療機関

重症患者または多数の軽症患者発生の際、専用病棟を設置する病院 (5医療機関)

宿泊療養施設 (1施設)

無症状者・軽症者のみ受入可

(10/16~)
○中央 (58室 99人)

診療

外来医療機関
(発熱患者等の診療又は検査を実施する医療機関)

診療・検査医療機関
(209施設)
※旧帰国者・接触者外来を含む

医療機関①
受診相談センターや
他の医療機関からの
紹介を受ける

医療機関②
自院のかかりつけ患
者や自院に直接相談
のあった患者のみ

公設仮設診療所等
(11施設)

・二次医療圏毎に設置
・1~7日/週開設
・2時間程度稼働
・市町村等が設置
・医師会が運営

※新型コロナの検査を実施しない医療機関については、
仮設診療所等他の医療機関と連携し、検査を実施

積極的疫学調査に基づく検査
(診療・検査医療機関等で採取)

緊急・重症
濃厚接触者等

検査

検査機関
(350件/日→630件/日)

クラスター発生時等

民間検査機関

・秋田県総合保健事業団
90件/日→120件/日

民間医療機関

40件/日→290件/日
(PCR、Lamp、抗原検査)

行政機関

・県健康環境センター
90件/日
・秋田市保健所
30件/日

秋田大学

・PCR検査ラボ
100件/日

※このほか、診療・検査医療機関等で抗原検査キットを活用

令和2年11月27日現在

県外との往来及び会食における感染防止策の徹底について

令和 2 年 1 1 月 2 9 日
秋田県新型コロナウイルス感染症対策本部

1 県外との往来について

【G o T o トラベル事業を巡る状況】

- 「G o T o トラベル事業」については、札幌市、大阪市を目的地とする新規の予約受付が 2 4 日から停止されているが、2 7 日の国の新型コロナウイルス感染症対策本部で両市から出発する旅行については事業の利用を控えるよう呼びかけることを決定（12/7 までのキャンセル料は国が負担）。
現在、東京都については、出発・到着分いずれも「G o T o トラベル事業」を継続。
- 国は、新型コロナウイルス感染症対策分科会の基準でステージⅢに該当すると知事が判断した区域を目的地とする旅行について、事業から除外することになっているが、本県の感染状況はクラスターの発生により増加傾向にあるものの、その水準には至っていない（ステージⅢ「現時点の確保病床利用率 2 5 %」に対し 1 4 . 9 %）。

【県の感染警戒レベルの状況】

- 1 週間の新規感染者数は 1 6 人であるが、感染の広がり概ねクラスター発生施設に限定されており、入院者数も 7 人（重症 0 人）で確保病床の利用率は 1 4 . 9 % にとどまっていることなどから総合的に判断し、レベル 2 を維持する。

【県外との往来に関する注意点】

- 県民の皆様には、北海道や首都圏、関西圏、中部圏など感染拡大地域との往来に関しては、訪問先の感染状況に注意し慎重に判断していただくよう御協力をお願いします。
- 移動する場合は、マスクの着用やこまめな手洗いなどの基本的な感染対策を改めて徹底するとともに、国が提供している「接触確認アプリ（C O C O A）」の活用について御協力をお願いします。
- 訪問する際は、時期も含め混雑を避けるとともに、夜の繁華街における接待を伴う飲食店や 3 密となる場での会食は避けるなど、最大限の注意をお願いします。
- 出発前・帰県後に発熱や体のだるさ、味覚・嗅覚に異常を感じたときは無理に出発したり外出したりせず、速やかにかかりつけ医に電話で相談して受診するか、「あきた新型コロナ受診相談センター」に相談するようお願いします。
また、帰県後は、周辺の方々との接触には十分留意するとともに、例えば、2 週間の行動歴を記録するなど感染拡大リスクを最小限にするための取組をお願いします。

2 会食について

【G o T o イート事業を巡る状況】

- 「G o T o イート事業」については、北海道、埼玉県、千葉県、東京都、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、沖縄県の9都道府県が4人以下の人数制限を実施。
- 北海道、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、大阪府、兵庫県の10都道府県は販売を中断。
また、北海道（札幌市内のみ）、埼玉県、東京都、大阪府の4都道府県は発行済みの食事券やポイントの利用を控えるよう呼びかけを実施。

	人数制限	販売中断	(参考) 時短・休業の状況
北海道	○	●	札幌市の一部 11/28～12/11 ※接待を伴う飲食店は札幌市全域
茨城県		○	県南部 8 市町 11/30～12/13
埼玉県	○	●	
千葉県	○	○	
東京都	○	●	23区及び多摩地区 11/28～12/17
神奈川県		○	
静岡県		○	
愛知県	○	○	名古屋市の一部 11/29～12/18
京都府	○		
大阪府	○	●	大阪市の一部 11/27～12/11
兵庫県	○	○	
沖縄県	○		
計	9 都道府県	10 都道府県	

(注) ●は取得済みの食事券やポイントの利用自粛も合わせて呼びかけ

【会食に関する注意点】

- 県民の皆様には、忘年会など年末年始は会食の機会が増えることから、マスクの着用、手指の消毒、人と人との間隔の確保、店舗による検温への協力、大声を避けるなど感染防止策を徹底した上で、県のプレミアム飲食券や「G o T o イート事業」を利用して飲食を楽しんでいただきたい。
- 注意力の低下や気の緩みなどにより感染リスクが高まる場面として、飲酒を伴う懇親会、大人数や長時間におよぶ飲食、マスクなしでの会話やカラオケが指摘されているので、例えば、飲食の際は会話を控え、会話をするときにはマスクを着用するなど十分注意をお願いします。
- 事業者にあつては、業種別の感染拡大予防ガイドラインを踏まえた対策を徹底するとともに、換気や加湿を励行するほか、クラスターの発生に備え「秋田県版新型コロナウイルス安心システム」の登録や利用客の連絡先の把握についてお願いします。
- なお、11月30日から接待を伴う飲食店を含む全ての飲食店約7,300店に対し、感染拡大予防ガイドラインの徹底を求めるダイレクトメールを送付。

12月1日以降のイベントの開催制限について

令和2年11月29日
秋田県新型コロナウイルス感染症対策本部

新型コロナウイルス感染症への対応に係るイベント等の開催制限について、国の通知を受け、参加人数の上限について12月1日以降も当面来年2月末まで次のとおり継続する。

なお、映画館については、感染防止策の徹底を条件に上映中の軽食を容認。

※ 飲食を伴うがイベント中の発声がないことを前提としうるものについて、会話が想定される場合での飲食禁止等の感染防止策の徹底を条件に「大声での歓声・声援等が想定されるイベント等」として扱わず、収容率を100%以内にすることができるものとする。

① 大声での歓声・声援等が想定されないイベント等

例：クラシック音楽コンサート、演劇等、舞踊、講演会・式典

※映画館でのポップコーン等については、上映中に限ることなどを条件に満席を容認。

- 収容定員5,000人以下の場合、収容定員（空席を設ける必要はない）
- 収容定員5,001人から10,000人までの場合、5,000人を上限
- 収容定員10,000人を超える場合、50%を上限
- 収容定員が設定されず、区域内の適切な行動確保が可能な場合は、密が発生しない程度の間隔を確保

② 大声での歓声・声援等が想定されるイベント等

例：ロック・ポップコンサート、スポーツイベント、ライブハウスでのイベント

- 収容定員の50%
- 個人間や異なるグループ間で1席以上空席を設ける。ただし、5人以内の家族や友人などのグループについては、グループ内の席は空けなくてもよい（この場合、50%を上回ることも可だが、上記①が上限）。
- 収容定員が設定されず、区域内の適切な行動確保が可能な場合は、1m以上の十分な間隔を確保

新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 対 策 に つ い て

令和2年11月29日

秋田県新型コロナウイルス感染症対策本部

■ 感染拡大防止に向けたお願い

1 開始期間

令和2年 12月1日(火) から

2 対象区域

秋田県全域

3 内容

(1) 県外との往来

- 都道府県をまたぐ移動については、特に北海道や首都圏、関西圏、中部圏などの感染拡大地域との往来には、訪問先の感染状況に注意しながら、慎重に判断していただくようをお願いします。
- 混雑 (時期・場所) を避け、人と人との間隔を確保するようお願いします。
- 訪問した場合は、感染防止策がとられていない店舗の利用や、例えば「換気の悪い密閉空間」「多数が集まる密集場所」「間近で会話する密接場面」の3条件が重なる「三密」の場での会食は避けるなど、最大限の注意をお願いします。
- 政府が推奨する「新しい旅のエチケット」を参照の上、「会食時を含めたマスクの着用」や「手洗い」などの基本的な感染対策を実施するとともに、「接触確認アプリ(COCoA)」の活用をお願いします。

■ 感染拡大防止に向けたお願い

- 出発前・帰県後に発熱や体のだるさ、味覚・嗅覚に異常を感じたときは無理に外出せず、速やかにかかりつけ医に電話で相談して受診されるか、「あきた新型コロナ受診相談センター」に相談するようお願いいたします。

また、帰県後は、周辺の方々との接触には十分留意するとともに、例えば、2週間の行動歴を記録するなど感染拡大リスクを最小限にするための取組をお願いいたします。

（２）基本的な感染対策の実施

- 今後、早期診断や治療法の確立、効果的なワクチンの開発等が実現するまでは、長丁場で感染の拡大防止と社会経済活動の両立を図っていく必要があります。

県民及び事業者の皆様には、感染のまん延を未然に防ぐため、「人と人との距離の確保」「マスクの着用」「手洗い」をはじめとした基本的な感染対策に加え、三密を避けるようにし、自己への感染を回避するとともに、他人に感染させないように徹底をお願いいたします。

- 日常生活や職場のほか、忘年会など年末年始に増える飲酒や会食の機会において、「感染リスクが高まる5つの場面」に気をつけて行動されるようお願いいたします。
- 飲食の際は会話を控え、会話をするときはマスクを着用するなど十分注意をお願いいたします。
- 発熱や体のだるさ、味覚・嗅覚に異常を感じた際は、無理に出勤や登校しないほか、会食にも参加しないようにし、速やかにかかりつけ医に電話で相談して受診されるか、「あきた新型コロナ受診相談センター」に相談するようお願いいたします。

■ 感染拡大防止に向けたお願い

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



■ 感染拡大防止に向けたお願い

（３）冬期間における感染防止策の実施

- できる限り頻繁に手洗いをお願いします。
- 咳をする場合は、咳エチケットにより飛沫を飛ばさないようにするとともに、室内の換気にも気をつけるようお願いいたします（冬期間の換気等については、次のポイントに留意されるようお願いいたします。）。
- 不特定多数が集まる施設では、ファンヒーターなど温風の吹き出し口の側に立って会話をしないようお願いいたします。

寒冷な場面における新型コロナ感染防止等のポイント

1. 基本的な感染防止対策の実施

- マスクを着用
（ウイルスを移さない）
- 人と人の距離を確保
（1mを目安に）
- 「5つの場面」「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」を参考に
- 3密を避ける、大声を出さない

『5つの場面』

- 場面1：飲酒を伴う懇親会
- 場面2：大人数や長時間におよぶ飲食
- 場面3：マスクなしでの会話
- 場面4：狭い空間での共同生活
- 場面5：居場所の切り替わり

2. 寒い環境でも換気の実施

- 機械換気による常時換気を
（強制的に換気を行うもので2003年7月以降は住宅にも設置。）
- 機械換気が設置されていない場合は、室温が下がらない範囲で
常時窓開け（窓を少し開け、室温は18℃以上を目安！）
また、連続した部屋等を用いた2段階の換気やHEPAフィルター付きの空気清浄機の使用も考えられる
（例：使用していない部屋の窓を大きく開ける）
- 飲食店等で可能な場合は、CO2センサーを設置し、二酸化炭素濃度をモニターし、適切な換気により
1000ppm以下（*）を維持
*機械換気の場合。窓開け換気の場合は目安。



3. 適度な保湿（湿度40%以上を目安）

- 換気しながら加湿を
（加湿器使用や洗濯物の室内干し）
- こまめな拭き掃除を

■ 感染拡大防止に向けたお願い

(4) 各施設における感染防止策の実施

- 各施設管理者の皆様においては、【別紙 1】施設に応じた感染拡大を予防するための工夫例を参照の上、「入場者の制限や誘導」「手洗いの徹底や手指の消毒設備の設置」「会食時を含めたマスクの着用」等を行うことを含め、「三密」を避けること、室内の換気や人と人との距離を適切にとることなど、基本的な感染防止策の徹底を図りながら事業活動を行うようお願いします。
- 従業員の働き方について、在宅勤務（テレワーク）、時差出勤など人との接触を低減する取組をお願いします。
- 「感染リスクが高まる『5つの場面』」が施設の中で具体的にどこにあるかをチェックしながら、各業界団体が作成する業種ごとの感染拡大予防ガイドラインに沿った取組の徹底をお願いします（内閣官房【<https://corona.go.jp/>】：新型コロナウイルス感染症対策「業種ごとの感染拡大予防ガイドライン一覧」を参照）。
- 施設やイベント会場の利用者等が感染した場合などにLINEでお知らせする「秋田県版新型コロナ安心システム」の導入をお願いします（詳しくは県ウェブサイトのサイト内検索でコンテンツ番号「50770」を検索）。
- 接触確認アプリ（COCOA）や「秋田県版新型コロナ安心システム」のQRコードを入口に掲示し、場内アナウンスで登録を呼びかけるなど、来場者への利用促進にご協力をお願いします。

■ 感染拡大防止に向けたお願い

(5) イベント・行事等の開催

- イベント・行事等については、感染防止策を講じた上で次により開催するようお願いいたします。なお、開催に当たっては、別紙6～8の内容にご留意願います。
- 全国的・広域的なお祭り、野外フェス等について、別紙4に該当するものについては、開催が可能であることに留意されるようお願いいたします。
- 初詣については、別紙5に記載された事項に留意されるようお願いいたします。
- 全国的な人の移動を伴うイベント（主に観客等の他都道府県からの往来が想定されるもの（選手や出演者等は除く。））又は参加者が1,000人を超えるイベントの開催を主催される方は、県への事前相談をお願いいたします（詳しくは県ウェブサイトのサイト内検索でコンテンツ番号「51207」を検索）。

■ 感染拡大防止に向けたお願い

<イベント・行事等の参加人数の上限等： 2月末まで>

	収容定員が設定されているもの			収容定員が設定されていないもの	
	5,000人以下	5,001人～10,000人	10,000人超	入退場時や区域内の適切な行動確保が可能	入退場時や区域内の適切な行動確保が困難
・ 大声での歓声・声援等がないことを前提とするもの <u>(注1)</u> クラシック音楽コンサート、演劇等、舞踊、伝統芸能、芸能・演芸、公演・式典、展示会、地域の行事等	収容定員	5,000人	50%	密が発生しない 程度の間隔 (最低限人と人が接触しない程度の間隔)	十分な 人と人との 間隔 (1m)
・ 大声での歓声・声援等が想定されるもの <u>(注1)</u> ・ 食事を伴うもの <u>(注2)</u> ロック・ポップコンサート、スポーツイベント、公営競技、公演、ライブハウス・ナイトクラブでのイベント、地域の行事、結婚披露宴や葬儀での会食等	50% ※個人又は5人以内のグループの間に1席以上空席を設ける。ただし、5人以内のグループ内では空席を設けなくともよい(この場合50%を上回ることも可だが、上記人数を上限とする。) 【イメージ：●人、×空席】 ・個人の場合 [● × ● × ● × ●] ・5人以内のグループの場合 [● ● × ● ● ● ● × ●]			十分な 人と人との 間隔 (1m)	※全国的又は広域的な人の移動が見込まれるものや参加者の把握が困難なものは、中止を含めて慎重に判断。ただし、別紙4に記載された条件が全て担保されるものについては開催可能。 ※地域の行事など、参加者がおおよそ把握できるものについては、感染防止対策を徹底した上で実施可能。 ※初詣については、別紙5に記載された事項に留意。

(注1) 別紙2「イベント開催時の必要な感染防止策」の実施が前提。なお、実施できない場合は、屋内は5,000人又は収容定員の50%のどちらか小さい方が上限。屋外は5,000人を上限とし、十分な間隔(できれば2m)を確保。

(注2) 飲食を伴うがイベント中の発声がないことを前提とするイベントについては、別紙3に記載された条件が全て担保される場合に限り、「大声での歓声・声援等がないことを前提とするもの」として取り扱う。

■ 感染拡大防止に向けたお願い

(6) 感染拡大の傾向が見られる場合の措置の実施

- 感染拡大の傾向が見られる場合は、「感染警戒レベル」を踏まえ、外出自粛要請やイベント開催の中止又は延期要請、施設の使用制限など必要な対策を速やかに講じるものとします。

(7) 誹謗中傷の禁止

- 感染者や濃厚接触者及びその家族、医療関係者等に対する嫌がらせやSNSでの誹謗中傷や人物の特定は人権侵害に当たるほか、不安や恐怖心から受診や相談、疫学調査への協力をちゅうちょさせ、感染拡大のリスクを高めることにもつながりますので、絶対に行わないようお願いします。

【別紙 1】

衛生対策・その他

（1）徹底した感染防止等（収容率50%を超える催物を開催するための前提）

①	マスク常時着用の担保	・マスク着用状況を確認し、個別に注意等を行い、マスクの常時着用を求める。 * マスクを持参していない者がいた場合は主催者側で配布・販売を行い、マスク100%を担保。
②	大声を出さないことの担保	・大声を出す者がいた場合、個別に注意等ができるもの。 * 隣席の者との日常会話程度は可（マスクの着用が前提） * 演者が歌唱等を行う場合、舞台から観客まで一定の距離を確保（最低2m）

（2）基本的な感染防止等

③	①～②の奨励	・①～②は、イベントの性質に応じて可能な限り実行（ガイドラインで定める） * マスク着用状況が確認でき、着用していない場合は個別に注意等を行うこと * 大声を出す者がいた場合等、個別に注意等を行うこと（例：スポーツイベント等ではラッパ等の鳴り物を禁止すること等）
④	手洗	・こまめな手洗の奨励
⑤	消毒	・主催者側による施設内（出入口、トイレ、ウイルスが付着した可能性のある場所等）のこまめな消毒、消毒液の設置、手指消毒
⑥	換気	・法令等を遵守した空調設備の設置、こまめな換気
⑦	密集の回避	・入退場時の密集回避（時間差入退場等）、待合場所等の密集回避 * 必要に応じ、人員の配置、導線の確保等の体制を構築するとともに、入場口・トイレ・売店等の密集が回避できない場合はそのキャパシティに応じ、収容人数を制限
⑧	身体的距離の確保	・大声を伴う可能性のあるイベントでは隣席との身体的距離の確保。具体的には、同一の観客グループ間（5名以内に限る。）では座席を空けず、グループ間は1席（立席の場合1m）空ける。 ・演者が発声する場合には、舞台から観客の間隔を2m確保 ・混雑時の身体的距離を確保した誘導、密にならない程度の間隔（最低限人と人とが触れ合わない程度の間隔）

イベント開催時の必要な感染防止策（2／2）

（2）基本的な感染防止等（続き）

⑨	飲食の制限	・ 飲食用に感染防止策を行ったエリア以外での飲食の制限 ・ 休憩時間中及びイベント前後の食事等による感染防止の徹底 ・ 過度な飲酒の自粛 ・ 食事は長時間マスクを外すことが想定され、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため、収容率が50%を超える場合、飲食可能エリア以外（例：観客席等）は原則自粛。 （発声がないことを前提に、飲食時以外のマスク着用担保、会話が想定される場合の飲食禁止、十分な換気等、一定要件を満たす場合に限り、食事可。）
⑩	参加者の制限	・ 入場時の検温、入場を断った際の払い戻し措置 * ただし、発熱者・有症状者の入場は断る等のルールをイベント開催前に明確に規定し、当該規定を十分周知している場合は払い戻し不要。
⑪	参加者の把握	・ 可能な限り事前予約制、あるいは入場時に連絡先の把握 ・ 接触確認アプリ（COCOA）や各地域の通知サービスの奨励 * アプリのQRコードを入口に掲示すること等による具体的な促進措置の導入
⑫	演者の行動管理	・ 有症状者は出演・練習を控える ・ 演者・選手等と観客が催物前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じるとともに、接触が防止できないおそれがあるイベントについては開催を見合わせる ・ 合唱等、声を発出する演者間での感染リスクへの対処
⑬	催物前後の行動管理	・ イベント前後の感染防止の注意喚起 * 可能な限り、予約システム、デジタル技術等の活用により分散利用を促進
⑭	ガイドライン遵守の旨の公表	・ 主催者及び施設管理者が、業種別ガイドラインに従った取組を行う旨、HP等で公表

（3）イベント開催の共通の前提

⑮	入退場やエリア内の行動管理	・ 広域的なこと等により、入退場や区域内の行動管理ができないものは開催を慎重に検討 * 来場者の区画を限定、管理した花火大会などは可。具体的には、①身体的距離の確保、②密集の回避、③飲食制限、④大声禁止、⑤催物前後の行動管理、⑥連絡先の把握等を担保することが求められる。
⑯	地域の感染状況に応じた対応	・ 大規模イベントは、事前に収容率制限等も含めて都道府県と相談 ・ 地域の感染状況の変化があった場合は柔軟に対応

※上記のうち、基本的な感染防止等が徹底されていない場合、従来の目安（人数上限5,000人又は収容率要件50%のいずれか小さいほう）を原則として、各都道府県が個別のイベント開催について適切に判断すること。

- 今後、必要な感染防止策に加え、下記の条件がすべて担保される場合には、イベント中の発声がないことを前提にする催物に限定して、収容率を100%以内にすることができるとする。

具体的な条件（感染防止策）

① 食事時以外のマスク着用厳守	・ 入場時に着用を確認し、必要に応じマスクの配布、販売を実施すること ・ イベント前に飲食時以外のマスク着用徹底を動画上映・アナウンス等で周知すること ・ イベント中の適切な監視体制を構築し、確実なマスク着用を求めること ・ 着用状況を踏まえ、必要に応じ一層の周知を図る
② 会話が想定される場合の飲食禁止	・ 例えば、映画の場合は、発声が想定される場面（例：上映前後・休憩中のシアター内等）での飲食禁止 ・ その他の催物についても、上記の要件に照らし、会話の有無を判断し、会話があり得る場面では飲食禁止を徹底
③ 十分な換気	・ 二酸化炭素濃度1000ppm以下かつ二酸化炭素濃度測定機器等で当該基準を遵守していることが確認できること、または機械換気設備による換気量が30m³/時/人以上に設定されておりかつ当該換気量が実際に確保されていること（野外の場合は確認を要しない）
④ 連絡先の把握	・ 可能な限り事前予約制、あるいは入場時に連絡先の把握 ・ 接触確認アプリ（COCOA）や各地域の通知サービスの導入に向けた具体的措置の徹底 ※アプリのQRコードを入口に掲示すること等
⑤ 食事時間の短縮	・ 長時間の飲食が想定されうる場合は、マスクを外す時間をなるべく短くするため、食事時間短縮のための措置を講ずるよう努めること

- これまで、全国的・広域的なお祭り、野外フェス等を開催する場合については、「十分な人と人との間隔（1 m）を設けるよう促すこととし、当該間隔の維持が困難な場合は、開催について慎重に判断すること」とされていたが、必要な感染防止策に加え、下記の条件がすべて担保される場合には、入退場や区域内の行動管理が適切にできるものについて、「十分な人と人との間隔が設ける」ことに該当し、開催可能と明確化。

具体的な条件（感染防止策）

① 身体的距離の確保	・ 移動時の適切な対人距離の確保（誘導人員の配置等） ・ 区画あたりの人数制限、ビニールシート等を用いた適切な対人距離の確保
② 密集の回避	・ 定点カメラ・デジタル技術等による混雑状況のモニタリング・発信 ・ 誘導人員の配置 ・ 時差・分散措置を講じた入退場
③ 飲食制限	・ 飲食用に感染防止策を行ったエリア以外での飲食の制限 ・ 休憩時間中及びイベント前後の食事等による感染防止の徹底 ・ 過度な飲酒の自粛
④ 大声を出さないことの担保	・ 大声を出す者がいた場合、個別に注意等ができるもの。
⑤ 催物前後の行動管理	・ イベント前後の感染防止の注意喚起 * 可能な限り、予約システム、デジタル技術等の活用により分散利用を促進
⑥ 連絡先の把握	・ 可能な限り事前予約制、あるいは入場時に連絡先の把握 ・ 接触確認アプリ（COCOA）や各地域の通知サービスの導入に向けた具体的措置の徹底 ※ アプリのQRコードを入口に掲示すること等

※アプリのQRコードを参道に掲示すること等

基本的方向性

- ・実効的な感染防止策と経済活動の質の確保の両立を図る。
- ・イベントは性質上、不特定多数者への集団感染リスクが考えられ、医療体制を逼迫させる可能性。「**新しい生活様式の定着**」、「**業種別ガイドラインの遵守**」を前提に、基本的な感染防止策に加え、感染リスクの分析に基づく有効な感染防止策の実施が重要。
- ・**自治体と主催者側で十分に連携しながら、イベントの性質（①地域の感染状況、②地域医療体制への影響、③規模（人数、全国的・地域的）等）に応じた適切なリスクアセスメントを行い、開催の態様・有無を判断。**「業種別ガイドラインの遵守」等が徹底できない場合には、開催について慎重に判断。
- ・エビデンスに基づき効果的な感染防止策を講じる。屋内では十分な換気が重要。屋外は通気性から十分な換気のある屋内と同様に扱う。
- ・地域の感染拡大やクラスターが発生した場合は、必要に応じて開催のあり方を見直し。

感染リスク

接触感染

- ・感染者の身体や感染者が触れた器具、感染者の飛沫が飛散した場所に接触した手で、口や鼻に触れる
- ※入退場（トイレ・ロビー）等の混雑では、感染リスク増加



感染防止策

- ・こまめな**手洗い**の励行
- ・出入口、トイレ等での**手指消毒**
- ・ウイルスが付着した可能性がある場所の消毒
- ・人と人とが**触れ合わない距離**の確保
- ・混雑時の身体的距離を確保した誘導

飛沫感染

※ 5 μ m以上の粒子

- ・感染者の飛沫（5 μ m以上）の吸い込み
- ※マスクを外す場合(会場での飲食等)には、飛沫飛散が生じ感染リスク増加



- ・**マスク着用**（飛沫の飛散は相当程度抑制可能）
- ・**演者が発声**する場合には、**舞台から観客の間隔を2 m確保**
- ・**劇場・ホール内での食事**は長時間マスクを外すことが想定され、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため**自粛**を促す
- ・混雑時の身体的距離を確保した誘導

マイクロ飛沫感染

※ 5 μ m未満の粒子

- ・感染者の隣席で微細な飛沫を吸い込み（①密接リスク）
- ・換気が悪い環境で長時間浮遊する微細な飛沫の吸い込み（②密閉リスク）
- ※大声を出すような環境においては、微細な飛沫が空気中に漂い、少し離れた場所にまで感染した事例が報告



- ・**大声を伴うイベント**では**隣席との身体的距離の確保**
- ・同一の観客グループ内は座席を空けず、グループ間は1席（立席の場合1 m）空ける。
- ・微細な飛沫が密集し、感染が発生することを避けるため**換気を強化**

（留意事項）

- ・感染者の来場を防ぐ対策の徹底（検温、体調不良時のチケット料金の払い戻し 等）
- ・感染発生時に感染可能性がある者を把握する仕組みの構築（座席固定、名簿管理の徹底、接触確認アプリ（COCOA）導入 等）
- ・複合的な性質を有するイベントに関しては、それぞれの性質に応じて要件を適用。

基本的方向性

- ・これまでの基本的な感染防止策（別紙1）を前提に、**①大声を出すことによるリスク、②食事すること（マスクを外すこと）によるリスク、③参加者の自由行動を伴うことによるリスク**の3点について検討。
- ・各リスクに対する必要な感染防止策をエビデンス、実績等に基づき検討。
- ・**必要な感染防止策を講じる場合は、これまでの実績も踏まえつつ、開催制限の緩和が考えられる。**
- ・イベントの大規模化に伴い一般に高まるリスクについても、具体的な対策内容を検討。

感染リスク**大声を出す**

- 合唱（演者間の距離）
 - ・飛沫、マイクロ飛沫の飛散による**演者間**の感染

エビデンス・実績

- 合唱（演者間の距離）
 - ・屋内の飛沫、マイクロ飛沫の**シミュレーション**

必要な感染防止策

- 合唱（演者間の距離）
 - ・演者やその家族の**体調・行動管理**
 - ・講じる防止策（マスク、フェイスシールド、マウスシールド着用等）に応じた**適切な対人距離**の確保
例：マスク着用時は前後1m左右50cm、未着用時は前後2m左右1m等
 - ・適切な換気の実施（測定装置の設置等）

食事をする

- ・食事に伴いマスクを外した場合の、**発声による飛沫、マイクロ飛沫の飛散**

- ・食事時の飛沫飛散の**実測**

- 映画館（別紙3）
 - ・会話等の発声が生じていない**実績**
 - ・**食事時の会話厳禁**（注意喚起、監視体制等）
 - ・食事時以外の**マスク着用厳守**（必要に応じ配布等）
 - ・食事時間の短縮
 - ・適切な換気の実施（測定装置の設置等）

参加者の自由行動を伴う

- ・会場内での**密接、密集**の発生による**接触感染、飛沫感染**の増加可能性
- ・固定席に比べ、**接触機会が増加**

- ・屋外の飛沫、マイクロ飛沫の**シミュレーション**
- ・感染防止策を講じた**実証実績**

- 野外ロックフェス、初詣（別紙4、5）
 - ・移動時の適切な**対人距離**の確保（誘導人員の配置等）
 - ・区画あたりの**人数制限**、ビニールシート等を用いた適切な**対人距離**の確保
 - ・飲食の適切な制限、過度な飲酒の禁止
 - ・大声が発生しないよう**注意喚起**

- イベントが**大規模化するにつれて、混雑、マイクロ飛沫充満、打上げ**により、**感染リスクが高まるおそれ**がある。
- イベントごとの態様や場面において、以下に代表されるような具体的な対策内容をそれぞれ検討することが求められる。

イベントの大規模化に伴い リスクが高まる場面

混雑

打上げ

**マイクロ
飛沫充満**

○想定される場面

密接・密集

接触・飛沫

共用部（トイレ、廊下、売店、休憩所等）、入退場時、駅等～会場、交通機関

○対策例

- ・ 行列ができる場所における**足元マーク**設置
- ・ 定点カメラやデジタル技術による**混雑状況のモニタリング・発信**
- ・ **時差・分散**（利用する駅の分散等）**措置**を講じた入退場
- ・ 駅等～会場における**誘導員**の配置、シャトルバス等の**増便**
- ・ **交通機関との連携**（臨時便の検討等）

○想定される場面

密閉

マイクロ飛沫

共用部（トイレ、廊下、休憩所等）、地下道、交通機関

※冬場は寒気の流入防止による密閉が生じがちなため特に注意

○対策例

- ・ 必要に応じ**入場人数を制限**
- ・ **仮設休憩所**（テント、プレハブ等）の**適切な換気**
- ・ **換気状況のモニタリング**（CO2濃度計測装置の設置等）
- ・ 地下道を避け、**地上道路**を利用するよう誘導
- ・ 交通機関における**走行中の窓の解放**

○想定される場面

3密

接触・飛沫・マイクロ飛沫

飲食店での飲み会、カラオケ等のイベント

○対策例

- ・ **自治体との連携**により、**会場や駅周辺の飲食店等**に注意喚起
- ・ 参加者に**飲食店等の事前予約**を推奨
- ・ 「**感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫**」に沿った飲み会等
- ・ **歌唱を行う場合のマスク着用**